

科目名	ヨーロッパ文化論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			国際学科	□ 必修 ■ 選択
			学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	European Culture	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	はんだ さちこ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	半田 幸子	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	ヨーロッパの文化に関する幅広い知識と教養を身につける。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. ヨーロッパ文化に関する基礎的な知識と教養。 2. ヨーロッパ文化の一端に触れ、その歴史的背景を理解する力。 3. 現代のグローバル社会の社会的および文化的構造を理解する力。			
授業概要	授業では、まず、ヨーロッパの概念、宗教、言語、都市など基礎的事項を確認します。その上で、授業担当者の専門地域であるチェコ共和国を取り上げ、中央ヨーロッパの小国チェコの文化を通して、ヨーロッパ文化の一端について理解を深めます。本年度は、特に、授業担当者の専門分野である 1920 年代から 1930 年代のチェコ・モダニズムに焦点を当てますが、番外編として、日本でのチェコ・モダニズムの受容や、モダニズムで活躍した風刺画家の 1950 年代での日本滞在も扱います。少し専門性が高いかもしれませんが、文献や映画を用いて、楽しく学び理解することを目指します。			
授業計画 (以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の学習状況によっては変更することがあります。)				
第 1 回	ガイダンス (授業概要説明等)			
第 2 回	ヨーロッパとは何か ① (概念、宗教など)			
第 3 回	ヨーロッパとは何か ② (言語、都市など)			
第 4 回	チェコ文化の基礎 (チェコの歴史および文化に関するイメージ喚起) ① <映画鑑賞 ① 前半>、解説			
第 5 回	チェコ文化の基礎 (チェコの歴史および文化に関するイメージ喚起) ② <映画鑑賞 ① 後半>、解説			
第 6 回	チェコ・モダニズムとは何か			
第 7 回	カレル・チャペック (1890-1938) と「ロボット」① 前提知識 (時代背景、人物および作品紹介)			
第 8 回	カレル・チャペック (1890-1938) と「ロボット」② 作品講読			
第 9 回	カレル・タイゲ (1900-1951) とデヴィエトスシル (1920-1930) ① 前提知識 (時代背景、および人物等紹介)			
第 10 回	カレル・タイゲ (1900-1951) とデヴィエトスシル (1920-1930) ② 作品講読			
第 11 回	日本におけるチェコ・モダニズム ① 前提知識 (時代背景、事例紹介)			
第 12 回	日本におけるチェコ・モダニズム ② 事例紹介と作品講読			
第 13 回	モダニズムを少し離れて：アドルフ・ホフマイステル (1902-1973) と日本 ① 前提知識 (時代背景、人物紹介)			
第 14 回	モダニズムを少し離れて：アドルフ・ホフマイステル (1902-1973) と日本 ② 文献講読			
第 15 回	まとめ			
第 16 回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 事前に教科書を読んで理解し、不明点を洗い出しておく。(週 1.5 時間程度) 2. 授業後に、該当箇所を改めて読み直してノートにまとめ、理解を深める。(週 1.5 時間程度) 3. 不明な箇所は、教員に聞いたり、参考文献を読んだりすることで、不明を解消する。(週 1 時間程度)			
履修条件 受講のルール	<受講上のルール> ・授業後の復習の習慣を身につけてください。 ・授業中の私語など、周囲の迷惑になる行為は厳に謹んでください。			

テキスト	授業中にプリントを配布します。
参考文献・資料	武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編『ヨーロッパ学入門』朝日出版社、2005年。 西野嘉章『チェコ・アヴァンギャルドーブックデザインに見る文芸運動小史』平凡社、2006年。 カレル・チャペック『ロボット』千野栄一訳（岩波文庫）、岩波書店、2003年。 ほか、適宜、授業の中で紹介します。
成績評価の方法	【授業への取り組み（50%）、定期試験（50%）】 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・毎回の授業後に課すコメントシート提出の有無や内容の充実度は授業への取り組みの評価に含みます。 ※ 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日 15:00～ ※ これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	ヨーロッパは地域的に大変広範囲に広がっており、概念の切り口も様々です。またその歴史も長く、半期の授業ではどうも語り尽くせませんし、一人の担当者で扱うものでもありません。したがって、この授業では、ヨーロッパ文化のほんの一端に触れながら、その有機的な連関性に思考を巡らせることで、視野を広げ、思考力を養うことを目的とします。まずは、映画、図版資料、文学作品を通して、理解力、考察力、思考力を養いましょう。本年度は、特にチェコに焦点を当てるため、敷居が高く感じるかもしれませんが、対話しながらできるだけ分かりやすく進めたいと考えていますので、少しでも興味が湧いたら、初回授業を覗いてみてください。